



定期散布を徹底し、高品質な柿を生産しましょう！

昨年より9日程早く生育が進んでいます。病害虫の防除は予防を意識し、早めの散布を実施しましょう。また、5月に入り高温が続くとカイガラムシの早期発生が予想されます。カイガラムシが多発すると原料柿に悪影響を及ぼすため、発生園では必ず防除を実施しましょう。

病害虫防除

中野市管内：発芽日 4/1

(昨年比-9日)

◎5月上旬（5月5日頃まで）の薬剤散布

●収穫前や収穫中の作物に飛散しないよう、十分注意する。

散布薬剤	水	100ℓあたり	散布日 5月 日
	展着剤（ハイテンパワー）	10mℓ	
	サムコルフロアブル 10	20mℓ	(前日、3回以内)
	劇 ダイアジノン水和剤 34	100g	(45日前、4回以内)
対象病害虫	ハマキムシ類、オオワタコナカイガラムシ、カキノヒメヨコバイ、カキノヘタムシガ、ケムシ類、ハスモンヨトウ		
散布量	10a当り 400ℓ *若木の場合、樹体に十分かかる量を散布する。		

《注意事項》

- ① ダイアジノン水和剤 34 は、劇物登録薬剤のため購入の際は印鑑をお持ちください。
- ② 訪花昆虫保護のため、薬剤散布は早朝（午前6時頃まで）に実施する。
- ③ 主幹害虫の発生が見られる場合は、ガットサイドSの1.5倍液（45日前、2回）を主幹部・主枝及び垂主枝の分岐部に塗布または散布する。

防除の際は必ず栽培日誌に記帳しましょう